

rongorongongo

茨城キリスト教大学
文化交流学科

茨城キリスト教大学文学部文化交流学科 〒319-1295 茨城県日立市大みか町6-11-1 TEL 0294-52-3215 FAX 0294-52-3493

「文化交流体験」で韓国に 韓国の2大学と交流——交換留学生にも会えた

文化交流学科4年次 戸田 亜希子

「文化交流体験」という授業で韓国に行ってきた。染谷先生引率のもと2年生3人、3年生9人の12人で4泊5日の日程。韓国に行くのが初めての人がほとんどで私も初めてでした。機内ではすでに韓国語が流れ、少しの単語しか覚えていない私はこれからの旅行に不安を感じ会話集をじっと眺めていました。

今回の旅行の目的は韓国の大学生と交流することです。韓瑞大学と毎年茨キリと交換留学をしている明知大学の二つの大学の学生と知り合い意見交換をします。韓国に到着すると韓瑞大学の金先生が大学のバスで迎えに来てくれました。金先生は日本語学科の教授で日本語が話せません。金先生のご協力で私たちは韓瑞大学に二泊させてもらうことが出来、旅費を安く抑えることが出来ました。一日目は韓瑞に着いたのが遅かったこともあり近くの食堂で本場の韓国料理を食べました。チゲや石焼ビビンバ、キム



チ、韓国の焼酎で韓国到着に乾杯し、お腹いっぱい食事をしました。二日目は金先生の授業に参加させてもらいました。一人一人自己紹介を相手の言葉でした後、10人くらいのグループになって日本語、韓国語を使って興味のあることについて話し合いました。私たちのグループでは日本と韓国の物価の違いや、日本では韓流ブームがあったが韓国でも日本のドラマや歌手が人気

であることを教えてもらいました。お互い会話が上手く出ずに電子辞書を使ったり、ジェスチャーを交えたりしながら楽しく話しました。とても上手に日本語を話す人もいて驚きました。初めは緊張したけれどみんな気さくに話しかけてくれてとても嬉しく、授業時間があつという間に感じました。

三日目、四日目は明知大学の学生で交換留学生として今年茨キリに来る人と待ち合わせました。三日月、四日目は明知大学の学生で交換留学生として今年茨キリに来る人と待ち合わせました。

新任教員自己紹介 観光学や比較文化論を担当

岩間信之

皆さんはじめまして。本年4月から、文化交流学科で観光学や比較文化論などの講義を受け持たせて頂くことになりました。岩間信之です。私は、生まれも育ちも茨城県という生粋のイバ人です。よろしくお願ひします。

自己紹介がてら、大学時代の思い出話を少々。私は大学・大学院時代、空手道場に通っていました。腕前の方からつきしでしたが、子供達の指導もしました。練習中に園児が道場でお漏らし(大)をしてしまい、何故か私が館

長にこっぴどく怒られた、という思い出もあります。初めての海外旅行は大学3年生のとき。安く行けるといふだけの理由で、南インドで植林ボランティア活動に参加しました。現地の大学生たちと一緒にマンゴローブの苗を植えたり、夜どうし遊んだり。本当に楽しかった。またイギリスでは、公共交通機関



スマスは来ると感動したことを覚

せて4、5人のグループになりソウルを案内してもらいました。私のグループにはヨン君というおしゃれさんが付いてくれて、韓国の伝統民芸品を数多く売っている仁寺洞や朝鮮王朝の建国者、李成桂によって建てられた景福宮、ソウルの街を一望出来るソウルタワーなどを案内してくれました。歩き続けてすごく疲れたけど、熱心に説明してくれ、地下鉄やバスを乗り継いで目的地に連れて行ってくれたヨン君にはとてもお世話になりました。彼らとは一年間茨キリで一緒に勉強するので、困ったことがあつたら助け合

い、韓国と日本についてまた話し合ったり食事をしたりしようとして約束して別れました。日本から一番近い国と言われる韓国。実際訪れるまで知らなかったことは多くあつたし、バスの急停止、急発進は

がストップしてしまい、クリスマス・イブの夜を空港の殺風景な待合室で明かした、なんてこともありました。アメリカ同時多発テロの翌年の話です。マシンガンを手にしたイカツイ警備員に職務質問されましたが、事情を説明したところ Merry Christmas と温かい言葉をかけて貰えました。こんなところにも、ちゃんとクリスマスは来ると感動したことを覚



私のゼミでは、観光学を中心とした演習を行います。観光は成長著しい産業です。みなさんが観光業界に就職するお手伝いができたら、と考えています。でも、教室で扱える内容はごく僅かです。みなさんには、夏休みなどを活用して、どんどん旅に出て、どんどん見聞を広めてもらいたいと思います(勉強も忘れずに)。大学での4年間は本当に貴重です。是非、有意義に使ってください。

ロンゴロンゴとは南太平洋ポリネシアのイースター島で昔作られていた「物を言う板」です。この板には文字のようなものが書いてありましたが、この文字はまだ解読されていません。これは島の人々に歴史や情報を伝える板でした。

07年4月号目次

辛かったし、毎日食べ過ぎました。それでも韓国を歩いて見て、韓国人の優しさに触れて韓国をとても身近かに感じました。今回は日本語で韓国を旅行してしまつたので、次に行く時には韓国語を話せるように勉強に励もうと思ひます。

2〜5面

◆学生の学生による
学生のための授業紹介
新入生の皆さん、いよいよ大学での生活がスタートしました。大学生活の大部分を占めるのが授業です。そんな授業だからこそ賢く選択したいものです。そこで今回は文化交流学科の科目を中心に実際に授業を受けた学生の授業コメントを紹介いたします。これを参考に自分の興味を持つフィールドを見つけてください!

4〜5面

◆大学図書館おすすめの本冊

6面

◆「グーグル革命の衝撃」を見て

◆出張アジアンバザール

7面

◆ICANN 一緒に活動しませんか?

◆日本語教育ボランティア・あんず

8面

◆日韓シンポジウム報告

◆タイ・カンボジア旅行記

◆編集後記

文化交流学科の科目

文化交流について 学ぶための入り口

藤田 悟 齋藤 聖二 堀口 悟 染谷 智幸

文化交流論・地球市民論

◆この講義は、前期・後期で4人もの先生が受け持つられる。一つの講義でこれほどまでに先生方が受け持つられる講義はないと思う。また、4人の先生が専門とすること話してくれるので、聴くほうも各先生方ごとの違いを比較しながら興味をもち聞くことができる、そのような講義でした。

◆この講義では、複数の先生方から様々な視点の異国文化のお話を聞くことができますし

た。

◆今日、各国の文化に優秀なでないことは直感的にも自明のことでしょうが、その理由を知るには異国文化を学び比較することが重要で、また、自国の文化を客観的に認識するための鏡としても他国の姿は必要なのだ、この講義によって考えました。学生が考えを述べる機会も度々あり、文化交流について学ぶための入り口と言えらると思います。

分からなかつたことが 見えてきた

細谷 瑞枝 先生

基礎演習

◆一年間、基礎演習の授業で私は色々勉強することが出来た。前期は毎週宿題があつて大変だったけれどもそのおかげできちんと期限を守ることが身についた。また、どのようにしたら良いレポートが書けるのか、という手段(書き方)が分かつて勉強になった。



後期は、発表することの難しさを身をもって経験した。聞き手の聞きやすい速度や声の大きさ、またどのようにしたら自分の言いたいことが聞き手に伝えられるか、分かりますか、自分の立場でなく相手の立場になつて考えることができた。また、発表を聞く時の態度も身についたと思う。発表は慣れることも必要と分かつた。

◆宿題が多くて大変だったが、レポートの書き方、図書館の使い方、文献の探し方など、基礎となる部分をしっかりと学べました。特に発表やレポートの書き方は今後役に立つ



つのでうれいす。

◆ひとつ悔しいのは一年かけて作ったレポートを、自分の満足いくものまでもつていけなかつたことです。次はこの経験を活かし、悔いの無いものにしたいです。

◆前期は、提出物が毎週のようにあり大変だった。しかし、大学に入つてから「強制」されるものがあまりなく、だらけていた部分があつたので、今考えると自分のためになつたと思う。提出期限を過ぎてしまうことも多く、後回しにせずにやるべきことはきちんとやらなければいけないと感じた。後期は発表が中心で楽しかつた。人前に立つて話す

こと、自分の意見を伝える大切さ・難しさ・楽しさを学んだ。人の意見を聞くことも、自分の視野を広げることが出来るので、大事だと思つた。

手探りで授業を

言語コミュニケーション演習

◆今年も去年と違い、心理学の面からアプローチしていったので、みんな手探りで授業を進めているような感じがしました。また、「心理学って難しい」という先入観があつたので、なかなかとつきにくかつたです。でも、自分が考えもしなかつた視点から昔話を見ることができて面白かつたです。私がそれをきちんと理解できたかどうかは別として、「こういう考え方もあるんだ」と思われまされた。難しいなと思いつつも、興味深い内容だつたと思えます。



二葉進先生 実務経験を生かした講義

二葉先生は07年3月をもって退職されました。

観光業志望の方へ 先生の経験から

観光学

◆観光学の講義では、観光ビジネスや体験型観光など現代の様々な観光事業の仕組みを詳しく学びます。二葉先生は長い間、観光業界に従事していたので、ためになる話を沢山聴くことができます。将来観光関係の仕事に就きたいと思っている人はぜひ受けてみてください。

報道技術

◆報道技術では、旅の紀行文からその時代の人々が世界をどのように見ていたのか、また観光地ではどういった情報発信をすべきか、などを知ることができました。先生自身の経験を交えて授業をしてくれるので、好奇心を刺激され楽しく学べました。

いつか訪れたい

比較文化論

◆比較文化論では、日本国内と海外の観光地理を学びました。丁寧な解説と、二葉先生の体験を交えながらの講義は、とても楽しいものでした。魅力的な観光地に行くつも出会つたので、いつか訪れたいと思つています。

毎回驚きながら

地球ウォーキング演習

◆私たちのゼミでは観光業について学んでいます。観光業



に興味はあるけれど知識はないという私は、今まで知らなかつた新鮮な話を聞くことができ、毎回驚きながら受講しています。また経済や社会・流通等の仕組みについて関連して話が聞けるので面白いです。

みんなに伝えたい

学園祭で赤ずきんの劇、展示

◆なぜ赤ずきんの劇、展示しようと思うに至つたか？理由は、私が三年次からゼミに参加して感じたことが深く関わつている。三年次のゼミのテーマは『人と動物との婚姻譚』である。今思えば、そういつた話がよくもあれほどあつたものだと思う。私は、図書館でも実際に取らないであろう物語をいくつもゼミの発表で聞き、奇想天外なストーリー・残酷さに驚いたり、

似たような話を聞いたことがあると感じたこともあつた。そして、何より物語に対しての見方が変わった。一つの物語に対して、改めてたくさん問の問いかけが出来ることに気がつた。その問いに対して、ゼミの全員で考えを巡らせて決まつた意見、あるいは自分なりの意見を投げかけることが出来る。私はその時間がとても有意義でこの演習を授業の時間だけで終わらせるのはもつたない！と、思つた。

そして最終的な劇、展示をした理由。このゼミを受けるまでは物語に疑問など抱かなかつた私たちがこのゼミで知つた多くのことを、他のみんなにも伝えたいと思ひ、このゼミで学んだことをとりあえずどんな形でもいいので授業意外で残しておきたいと思つた。



堀口悟先生

メリハリのある授業

日本語教育I

◆日本語教育Iでは、外国人と接する時に起こる問題や文化によって物事の解釈は様々あるということを事例を挙げて教えてくれます。日本語能力検定試験についても詳しく紹介してくれます。堀口先生は優しい笑顔で時には冗談を

交えながら授業を進めてくれるのでメリハリのある授業だと思います。



文化ネットワーク実習

◆染谷先生は、「私の染谷」といわれていて、その名の通り、初心者にもとても分かりやすくパソコンについて説明してくれます。ブログやホームページをたちあげたりします。ただし、タイピングで速度200を越えないと、単位

がもらえません。



染谷智幸先生

初心者に分かりやすく

れ、また時には笑いもありません。戦争とは一体何なのかを考えさせられます。授業を聞いていると、自分が今まで知っていた歴史が思い込みだったことに気づかされ、また違う事実を教えられるのでとてもいい刺激になります。

講義は楽しく

日本史

下までの歴史を勉強していません。戦争とは一体何なのかを考えさせられます。授業を聞いていると、自分が今まで知っていた歴史が思い込みだったことに気づかされ、また違う事実を教えられるのでとてもいい刺激になります。

◆始めのころは、今まで受けてきた授業のようにホワイトボードに年代や人物を書いてそれを暗記するという感じだと思っていました。でも実際は、先生がプリントやホワイトボードを使いながら暗記という形ではなく、その事柄について自分の考えをまとめるといふ今までのない講義でした。そのせいか講義は楽しく受けることが出来ました。

すべてがこのような講義という形には出来ないまでも、この講義スタイルは自分にとっては新鮮でいいと思いました。



齋藤聖一先生

確実に上達

文化ネットワーク実習

◆ワードやエクセルの初歩からきちんと学べるので、将来役に立つこと間違い無しです。タッチタイピングのテストのノルマはちよつときびしめですが、確実に上達できます。

名言も聞けます

情報ネットワーク演習

◆斎藤ゼミでは、日本近代史に触れたテーマを設定し、論文の執筆を課題としてしています。自分が興味・関心を持っていることに疑問を投げかけ、問題をつきつめていくことで、自分なりの答えを導き出すことができます。

◆斎藤先生の国際関係史では、広島原爆について歴史的観点から興味深く講義をしてくれます。斎藤先生の講義でAを取るの大変難しいですが、授業はためになるし、たびたび聞ける先生のジョークがとても楽しい授業です。茨キリに入って先生の授業を取らないなんてもったいないですよ！

◆国際関係史は第一次世界大戦から広島・長崎原爆投

藤田悟先生

優しいなオーラ全開

基礎演習

◆新人生向けのとても楽しい講義です。

自分が相手の自己紹介文を書いて発表したり、自分の好きなものについて発表したりします。藤田先生は、なんといか優しいオーラ全開の先生で、全然厳しくなく、1番人気のゼミです。

資料を見ることがよって新たな発見ができるのでおすすめです。

大きな財産に

国際協力

◆JICA筑波センターでの合宿に参加し、ディベートをするまで「国際協力が必要である」ということを否定的に考えたことがありませんでした。ディベートで国際協力否定派になったため、その考えがぬけず、レポートもとても書きづらかったです。レポートのことを考えると、賛成派に思っていたほうがよかったです。これは思うのですが、良いとされていることを否定的に見るという経験ができたことはよかったです。

実際に手にとって

比較教育論b

◆比較教育論bでは、それぞれの時代の教育を比較し、時代による特徴を学びます。古い時代から順にどのような教育が行われてきたのかを毎回調べて発表します。また、寺子屋で使われていた往来物などの教科書を実際に手にとりて見ることが出来ます。昔の

生とも知り合えたことは、私の中でとても大きな財産になったと思う。また、研修生との交流で、その国についての教養をもう少し身につけていければ話が弾んだかもしれないので、外国のことにもっと興味を持ってほしい。

と、バレーボールやイス取



◆何より一番心に残っているのは、研修員の方たちとの交流会です。私は今まで比較的に安全とされている国へしか行ったことがありませんでした。しかし、今回の研修ではアフガニスタン、イラク、ヨルダン、パレスチナなど実際に現在戦争をしている国の方々と話が出来るのがすごく印象的でした。私の中で彼らはとても暗いイメージでしたが、しかし国では戦争をやっている、彼らは普通の人でした。楽しいときには陽気に

笑い、一生懸命やるときは真剣にやる。私たちとなら変わりのない人たちでした。彼らとスポーツをしたり、ゲームをしたり、一緒に話をしたりしたことによって戦争がどれだけ残酷かということが身にしみて感じられました。

◆スポーツ大会や交流会などで見た研修生たちの姿が印象的だった。母語以外に外国語として英語を習得して、しかも英語の通じにくい日本に来て技術を学ぼうとするストイックな人々というイメージ

りゲームで歓声を上げる姿のギャップには驚かされた。すべての人がそうだとはいえないにしても、同じ人間としてのバイタリテイの違いを感じた。自分ももう少し前向きに生きていけたらと思った。

◆JICAの派遣する青年海外協力隊について詳しく知ることができません。春休みにはJICAつくばセンターでの2泊3日の合宿研修があります。まず学校で国際協力の概要を理解した上で、センター研修ではワークショップやディベート、外国人研修生との交流会も行われます。その交流会の中で、研修生とのスポーツ交流会や、夕食会では研修生と夕食を食べながら交流を深めることができます。グループ学習では、いろいろな人とグループを組み、自分の考えとは違う様々な意見が出たり、普段知らない人と交流することもできます。

森謙二先生
自分なりに楽しもう

民俗学

◆民俗学では日本の年中行事について詳しく知ることが出来ます。「正月」には本来どのような意味があったのかなど知らなかったこともたくさんありました。今まで何気なく過ごしてきた一年を自分なりに見直すことが出来るので授業を聞き終えた今、日本に

猿田知之先生 日本語を理解する

日本語学Ⅰ

◆日本語学Ⅰでは世界の言語と日本語を比較し、そこから見てくる日本語の性格・性質を学びます。比較する言語は英語・中国語・韓国語が主です。英語・中国語・韓国語・日本語がどのような言語的特徴を持っているかを知ることが出来ます。私は第二外国語で韓国語を履修していたのでとても興味深い内容でした。また、自分が実際に発音している音と頭の中で考えている



音が異なるものだというところに初めて気付きました。人音に対していつのまにか固定観念を持っているのだと猿田先生の授業を聞いて知ることが出来ました。

日本語再発見

日本語学Ⅱ

◆日本語学ⅡはⅠの続きでより詳しく日本語について学びます。日本語の文の構造や私たちが今使っている漢字はい

つ頃出来上がったのか、時代背景を見ます。

猿田先生の授業はどれも出席チェックがとても厳しいです。その分、出席点もきちんと換算されます。日本語学は1限だったので毎週必死でした。先生は言語学を専門としていることもあり、現代の言葉使用や漢字の練習問題をやる機会にもあります。漢字を覚えるいい機会にもなるし、自分が話す時、書く時に使用している日本語について学ぶので、今まで知らなかった新しい発見があります。

実践力を養う

地球ウォーキング演習

◆志賀ゼミは個性派揃いでアットホームな雰囲気です。昨年は前期に「中国人や中国文化のメディア表象」というテーマを設けて、中国人や中国文化は日本のメディアの中でどの様に描かれてきたか、また、中国のメディアに描かれる日本人像や日本文化像はどの様なものを映画やCM、新聞記事などを基にグループ発表を行いました。後期には、フィールドワークの実践を課題とし、一人一人が個性ある生活史調査を行いました。例えば、「大学生の仕事観について」や「長期海外ボランティア経験者の帰国後の諸問題について」、「地域における葬送儀礼の現在、地方葬儀社を事例として」

志賀市子先生
実践力を養う

などです。

テーマの決め方、資料の集め方、レジュメの作成方法など基本的なものから、効果的なプレゼンテーションやディベートの実践力を養うことができました。

また、卒業研究の手解きから志賀先生です！最後までマントーマンで熱く指導してくれます！

柔軟な思考を持つ

文化人類学

◆プリントを使って分かりやすく説明していた。(シャーマン・いたこなど)マイクを使っていたので声が聞こえないなどのことがなく集中して話を聞くことができ、声も聞き取りやすかった。うるさい

「考える」授業

中国文化史

◆中国という日本に近い国だが、詳しく知らない国だった。近代史は、日本史でもそうだがあやふやで理解がされていない。しかし、中国文化史を履修してみて日本と中国の歴史の比較や流れがつかめた気がした。歴史だけでなく、アイデンティティーについても学ぶことができ、中国全体を浅く学ぶのではなく、台湾や香港といった地域を中心に学ぶことにより中国の全体像も見えてきた。

同じアジア文化圏にいるのに、近い国のことを何も知らずに先進を突き進むのではなく、近い国も理解して、今後目を向けていくことも大切だと思った。資料やレジュメがあるので、内容も分かりやすく、ホワイトボードを使ってくれてメモも取りやすく、授業後に自分の手元に残るのが良い。質問にも答えてくれるので、いい授業だと思った。

◆授業ではメディアを使ったりしていたので、中国の文化を実際に目にするのができ、授業を理解していく上で大変役に立ちました。さらに、先生が中国を訪問した時の貴重な話も伺えて嬉しかったです。

◆この一年で中国から見た中国史、当時の日本人への印象、これからの中国を学ぶことができた。

文化交流学科に所属していると、アジアへ目を向けた授

業に数多く触れることができます。これから益々発展を遂げる中国を理解することで、少しでも世界に目を向ける機会を増やしていきたいです。メディアを使った講義が多かったため、分かりやすく「写す」以外に「考える」授業ができたと思います。

大学図書館で「ICお勧めの百冊」

というブックリストを作りました。文化交流学科の先生方からは次のタイトルが「ぜひお勧め！」として推薦されました。図書館に推薦文つきのパンフレットがあります。すべての本が一つの棚にまとめてあります。手にとりてご覧ください。(藤田II図書館長)

●岩間信之

『グローバルシフト—変容する世界経済地図—上下』ピーター・ディッケン著 古今書院

『ジオグラフィ入門—地理学でみる日本と世界—』高橋伸夫・阿部和俊・谷内達・佐藤哲夫編 古今書院

『関東(2) 地図で読む百年—埼玉・茨城・栃木・群馬—』寺阪昭信・元木靖・平岡昭利編 古今書院

●斎藤聖一

『冒険投資家ジム・ロジャースの世界大発見』ジム・ロジャース著 日本経済新聞社

●志賀市子

『私の紅衛兵時代—ある映画監督の青春—』陳凱歌・刘開文俊 講談社新書

●染谷智幸

『江戸のまんが』清水勲 講談社学術文庫



ある年中行事を大切にし、自分なりに楽しもうと思つていきます。